

3. 主要施策の概要 令和2年度(2020年度)

I 安心・支え合い最優先

市民の安全・安心の確保と、地域の支え合いを醸成していく取り組みを進める

1. 防災体制のさらなる充実 【予算額 512,881千円】

- 大規模化する風水害に備え、「箕面市水防整備指針」により進めている全市の水路機能の増強を一気に加速し、未着手の32か所すべての対策を実施する。「レッドゾーン内人口ゼロ」をめざす市の急傾斜対策においては、残り5か所中、準避難路や通学路に被害が及ぶ3か所の対策を実施する。※レッドゾーン：土砂災害特別警戒区域
- 市内にある駅の地下通路や道路アンダーパス4か所と、市街地とは異なる気象現象が起きやすい止々呂美地域などの要監視ポイント4か所、計8か所にネットワークカメラを増設し、局地的な降雨状況をピンポイントかつリアルタイムに把握する。
- 災害に不慣れな外国人市民に対して、災害時に正確でタイムリーな情報が提供できるよう、外国語版市民安全メールの配信を開始するとともに、SNSなど外国人コミュニティの中で正確な情報を発信できる「外国人防災リーダー」を養成する。

2. オリンピック・パラリンピックへの機運醸成とスポーツ人口の増加 【予算額 8,625千円】

- ニュージーランド柔道チームのホストタウンとして、パブリックビューイングやオリンピック出場後の代表選手来訪などにより、国際交流とスポーツの機運を盛り上げる。
- オリンピック・パラリンピックの機運を市民一人ひとりのスポーツの実践行動につなげることをめざして、30代～50代をターゲットに、オリンピックで人気の4競技(卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール)の教室と競技大会を開催する。

3. 健康長寿をめざす多角的な取り組み 【予算額 559,575千円】

- 高齢者に人気のシニア塾のコースの充実や、体力測定・アンチエイジングセミナーなど健康への“きっかけづくり”の場を充実する。
- 30代から50代の忙しい世代でも参加しやすいスポーツプログラムを探る「大人のスポーツ・トライアル事業」を継続する。
- 健康維持に効果が期待される温水プールを備えた総合水泳・水遊場の整備において、PFI事業者の選定を進める。

4. 将来の消防需要に基づく消防力の保全 【予算額 333,461千円】

- 東部地域の人口増や市域全体の高齢化の進展による消防需要の増加に対応するため、本市の南部市街地における消防署(現在3署)を5署体制へ拡大する。その端緒となる新拠点「(仮称)豊川分署」の令和3年春の開署をめざし、整備工事を加速する。
- 5トン級車両の運転に準中型免許が必要となったことから、消防団の車両更新にあたり普通免許で運転ができる3.5トン級車両の導入を開始し、準中型免許取得費用の助成と併せて、消防団への新規入団者への負担軽減を図る。

5. きめ細かな安心と暮らしやすさへの取り組み 【予算額 497,418千円】

- 特殊詐欺被害の防止対策として、高齢者世帯を中心に自動通話録音装置を10,000個配布する。
- 就労外国人やその家族の生活を支援するため、地域での日本語教室の定員を拡大し、新規教室を開設する。
- 日本全国から箕面市の戸籍証明を取得できるよう、戸籍証明のコンビニ交付を導入する。
- 箕面市の指定ごみ袋(燃えるごみ専用袋)について、現在の20リットル・30リットルに加えて、要望の多い40リットル袋を新設する。
- 重度障害者のための生活介護事業所「(仮称)ワークセンター小野原」の令和4年春の開設に向けて建設工事を進める。
- 厚生労働省令の改正により平成31年4月から障害者手帳のカード化が可能になったことを受け、全国で初めてカード化を実施する。

II 緑・住みやすさ最先端

豊かな緑を守り、便利で住みやすく、元気で活力ある箕面をめざして、まちづくりを進める

1. 進むまちづくり 【予算額 14,361,221千円】

- 北大阪急行線の延伸工事において、国道171号をまたぐ橋桁の架橋や、地下区間におけるシールドマシンの掘削など、着実に工事を進展する。
- 箕面船場阪大前駅の駅前地区において、令和3年春のオープンに向けて市立文化芸術劇場、市立船場図書館、市立船場生涯学習センターの建設工事を進める。
- 北大阪急行線の新駅へのアクセス道路の整備を加速するとともに、桜井駅前ロータリーの令和3年度オープンに向けて整備工事を進める。

2. 安全な道路環境の整備と保全 【予算額 280,567千円】

- 大津市の園児交通事故を受け、幼稚園・保育所周辺の危険箇所対策を進めるとともに、キッズゾーンを設定し、通行車両に減速と注意を促す路面標示を行う。
- 通学路などの歩道改良や安全対策、青い路面標示の自転車レーンの整備などにより着実に通行の安全を守るとともに、道路施設の老朽化対策に万全を期すため、全175本の市管理の橋梁の計画的な点検を実施する。

3. 山麓保全の取り組み 【予算額 17,000千円】

- これまで公益信託で運用してきた「みのお山麓保全ファンド」を、NPO法人みのお山麓保全委員会を通じた直接助成に切り替え、国から交付されている森林環境譲与税を財源に、持続可能な仕組みで着実な山麓保全を図る。

III 子育てしやすさ日本一

子育てがしやすく、子どもたちが健やかにのびのびと育つ環境を整える

1. 一步先を行く箕面市の教育 【予算額 512,725千円】 【令和元年度補正予算額 983,260千円】

- 全小・中学校の全児童生徒(約12,300人)に1人1台のタブレットPCを配置する。(現在導入済みの小学校4年生～6年生全員(約4,300人)に加え、新たに約8,000台を追加導入し、1人1台体制を実現する。)
- 外国人英語助手(ALT)を2名増員し、全76名の体制を完成させる。中学校は各学年1名、小学校は2学年に1～2名の体制とし、全小・中学校、全学年で毎日英語に触れる取り組みを進める。

2. 教育分野における各種トライアル事業の継続 【予算額 102,183千円】

- 放課後学習における6種類のタブレット学習、塾講師による学習指導や、塾・習い事の費用を助成するなど様々な手法の比較検証を継続し、確実に効果が出せる学習支援により貧困の連鎖の根絶をめざす。
- 生徒指導部長や教務部長などの専任教員を加配して学校の組織体制を改変する「パイロット校」「ミニパイロット校」、教員の定型的な事務を他の職種が担うことで教員の負担を軽減する「事務支援員配置校」の取り組みを継続し、効果検証と効果を生み出す要因の分析を深化する。

3. きめ細かな教育・子育て環境の整備 【予算額 685,413千円】

- 学童保育における長期休業中のランチ提供、市立保育所の1・2歳児トイレへのエアコン整備、東図書館の親子交流スペース整備など、きめ細かな教育・子育て環境の整備を進める。
- 大津市の園児交通事故を受け、幼稚園・保育所周辺の危険箇所対策を進めるとともに、キッズゾーンを設定し、通行車両に減速と注意を促す路面標示を行う。(再掲)
- 民間保育園等のお散歩など園外活動時に、保育士とともに園児を見守るスタッフの雇用を支援する。
- 保護者や地域の住民が学校活動を支援する「学校ボランティアコーディネーター制度」のモデル校を拡大し、計3校で実施する。
- 子ども人口が順調に増加している箕面森町において、とどろみの森学園の第3期増築工事に着手する。(これを以て彩都の丘学園、とどろみの森学園の増築計画が完了する。)